



須 建 発 第 630 号

平成 20 年 10 月 17 日

国土交通省道路局長 様

須崎市長 笹 岡 豊 徳



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成 20 年 9 月 19 日付（国道企第 37 号）で依頼のありました標記につきまして、別紙のとおり提出いたします。

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

高知県須崎市

新たな中期計画の策定にあたっては、「必要と判断される道路は着実に整備する。」ということだが、その判断基準によっては都市と地方のインフラ格差が益々拡大するのではないかと危惧している。都市では、数分間隔で運行され短時間で目的地へ移動できる公共交通網が発達しており、日常生活や高齢化社会に対応できるインフラが整っている。

一方、地方では、採算性の面から公共交通が廃止され、移動手段は道路しか残っていない。その道路は、狭あいや急カーブなど通行の安全性が確保されていない未整備路線が多く残っている。このような道路の現状、人口の減少や少子高齢化など地方のおかれている深刻な現状に配慮し、地方が生き残れる政策が必要であると考えている。

現行の道路整備の評価手法のように、すべての道路を費用便益基準により画一的に判断するのではなく、日々の暮らしに欠かすことのできない地方の道路については、便益算定基準に災害時や緊急時の安心、安全を確保する「命の道」を便益項目に追加するなど地方の実態に即した評価基準を確立し、地方の最低限のインフラが確保できるように国の財政支援のあり方を見直す必要があると考えている。

② - 1 地域の現状と抱える課題

高知県須崎市

○ 現状

- ① 平成 14 年に四国横断自動車道が当市まで延伸し、県西部へ急ピッチで整備が進んでいる。この道路と国道 33 号を結ぶ国道 494 号の整備が遅れている。また浦ノ内地区を東西方向に縦貫している県道須崎仁ノ線の整備も遅れている。
- ② 地震津波の避難道路の整備が遅れている。
- ③ 橋梁、舗装などの道路ストックが高齢化している。

○ 課題

- ① 高速道路、重要港湾須崎港、近隣市町村と道路ネットワークを形成し災害時の物資の緊急輸送や近隣市町村との交流強化を図るため国道 494 号と県道須崎仁ノ線の早期整備が課題である。
- ② 地震津波時の避難道路などのハード整備とソフト対策を効率的に組み合わせどのようにして被害を最小限に抑えるかが課題である。
- ③ 高齢化している橋梁、舗装などの道路ストックの計画的、効率的な維持管理や更新をどのように図っていくかが課題である。

本市は、古くから天然の良港として優れた条件を備えた重要港湾須崎港と高幡圏域の交通の要衝として発展してきました。平成 14 年に四国横断自動車道が本市まで延伸され、近畿中四国まで高速道路で結ばれました。平成 23 年には中土佐町まで延伸の予定となっています。

本市には須崎東 I C を含め 3 つのハーフ I C ができます。須崎東 I C から以西の通行料は無料で、また、平行して側道ができるため、高速道路への上り下りが自由にできます。この地理的優位性をさらに活用し「まち全域がサービスエリア」という発想で、人と物の流通拠点として、まちの持続的な発展を図っていく取り組みを始めています。今後、この高速道路や国道 56 号とリンクする国道 494 号や県道須崎仁ノ線の整備を促進し、道路ネットワークを最大限に活用し「安心して住み心地のよい海洋都市」の実現に向け各種の施策に取り組みます。